

アフリカ諸国のファーストレディが

# 給食を 食べたら…

“国の母”が驚いた!

第一回アジア太平洋アフリカ女性経済サミット

2022年11月28日～12月1日



子供たちのため  
アフリカ大統領夫人が集まった

主催：第一回アジア太平洋アフリカ女性経済サミット実行委員会  
(一社)アジア太平洋アフリカ女性経済交流協会

後援：日本国外務省

in Japan

アフリカ諸国のファーストレディが

給食を  
食べたなら…

“国の母”が驚いた!

第一回アジア太平洋アフリカ女性経済サミット

2022年11月28日～12月1日

## 第一回アジア太平洋アフリカ女性経済サミット実行委員会 会長 主催者 中森 ふくよ（元衆議院議員）

“すべての子供たちが幸せになるために”  
その思いから全てが始まっています



中森 ふくよ  
元衆議院議員

“地球の未来を開くのは子供たち”だと思っています

年々増加する異常気象、巨大化する自然災害やテロや紛争など、子供たちを取巻く環境は一層厳しい状況となっております。子供たちが健康で生きられる環境を創る、それは大人である私たちの責任であると考えています。特に女性・母親の役割は重要といえましょう。子供たちを守り抜くことを本能として持っているのは母親たちであるからです。

成長していく小さな命を守る為に、お金も命も惜しまず、ただ一途に愛情を注ぐことが出来る母親たちが、子供たちの成長に向けて、今、手を取りあって協力し合うことが求められています。

生まれくる命への愛に、学歴も貧富の差もあろうはずがありません。

しかし現実には、金銭的・社会的理由で厳しい環境を余儀なくされている子供たちが大勢いることも事実です。

子供たちには、国境や宗教・政治も関係ありません。今回各国のファーストレディにご参加いただいた大きな理由は、ファーストレディこそがその国々の母であるからです。その国の子供たちはファーストレディにとって自分の子供たちと同じだからです。

### “国の母”による、子供たちのためのサミット

今回、開催させていただいた“第一回アジア太平洋アフリカ女性経済サミット”、それはまさに“国の母”による、“子供たちのため”のサミットです。

ご参加くださったファーストレディの皆様は、“連携の重要さ”を口々に訴えておられました。「それぞれの国の母が力を合わせれば、大きな力になる、出来ないことはない」と。しかしながら、サミットを3回も延期せざるを得ない世界情勢があり、もっと救えるはずの命があったと思うと、いたたまれない気持ちでいっぱいです。

3年間に渡ってパンデミックが世界中を席卷してしまつたことにより、当初2019年に開催予定の本サミットが2022年開催となってしまいました。

その間、アフリカはサバクトビバッタの襲来により、食糧危機の問題に直面しました。アフリカのファーストレディから当会に書簡が届き、二階俊博幹事長のご



活動の原点 2007年ウガンダ

指導の下、日本国外務省の協力を得て、TICAD7の予算で日本国として多くの緊急支援を迅速に行っていただきました。

## 母国で結実したいと望んだファーストレディたち

私は当サミット主催者として開催にあたり、①アジア太平洋アフリカの子供たちの未来の食糧の自給確保の拡大、②世界的気候変動による相互協力体制、を目的と致しました。

また、戦後日本が学校給食に国を挙げて力を入れた結果、当時栄養不足だった子供たちの成長に大きな改善がありました。アフリカにおいても、学校における飲料水の確保や給食問題の改善について議論していくことが大事だと考えました。より具体的な議論につながればと、来日されたファーストレディの皆様には、小学校での特別授業、給食体験を本サミットに加えさせていただきました。



活動の原点 2007年ウガンダ

ファーストレディたちは、「せめて子供たちが学校にいる間だけでも、安全で清潔な水にアクセスできる環境を作りたい。学校で水を汲み持ち帰り、家でも飲めるようにしたい」と口々に話されておりました。なぜなら、学校に通えない子供たちがおり、遠方までの水汲みは多くの時間を要し、水汲みの間に連れ去られる子供たちがいるからです。

## ファーストレディの連携こそが、子供たちを救う

子供たちにとっては、国境や宗教・政治も関係ありません。

このサミットで、“国の母”として世界に向けてファーストレディの総意で共同宣言が成され、発信されたことは、子供たちのための次のステップに向けての大きな力となりました。

岸田文雄内閣総理大臣との面談の際、総理よりファーストレディの皆様には「各国の相互協力、世界的な食糧危機の懸念、女性の方々・子供たちへの支援が急務である。日本としても引き続き女性の皆さんや子供の皆さんを守るべく、取り組みを進めていきたいと思っております」とのご発言をいただきました。ファーストレディの皆様は感激され、今回の会談がとても有意義であり、本国の子供たちへの大きな希望になると感謝されて帰国の途につかれました。

このサミットは谷垣禎一先生とウガンダにご一緒したことから始まり、そして安倍晋三内閣総理大臣と二階俊博幹事長のご決断で開催が決まり、菅義偉内閣総理大臣、岸田文雄内閣総理大臣と3代に渡り連携され、開催することが出来ました。このことは、日本として子供たちをいかに大切にしているかの証であると考えております。本当に感謝してもしきれません。

冒頭にも申し上げましたが、開催予定から3度延期を余儀なくされるなか、その都度ご都合をつけて参加のご意向をいただいていたにもかかわらず、今回日程の都合により、ご参加いただけなかったファーストレディの皆様方が深いご理解を示してくださったこと、感謝の意を申し上げます。

# 子供たちの未来と笑顔のために

子供たちのために  
どんなに遠くても  
国の母たちの想いは

子供たちの輝く  
歩いて行ける  
ひとつになった

未来のために  
生まれた命を守るため

子供たちのあした  
どんなに険しくても  
国の母たちの想いは

子供たちが作る  
手を取り進もう  
ひとつになった

明るい未来  
子供たちの希望と共に

子供たちは宝物  
どんなに困難でも  
国の母たちの想いは

未来から預かった  
助け合ってゆこう  
ひとつになった

みんなの宝物  
子供たちの笑顔求めて

## 目次

- 発刊にあたって ..... 2  
実行委員会 会長 中森 ふくよ (元衆議院議員)
- 第一回アジア太平洋アフリカ女性経済サミット実行委員 5  
最高顧問 二階 俊博 (衆議院議員 経済産業大臣 他大臣歴任・自由民主党元幹事長)  
相談役 谷垣 禎一 (元衆議院議員 財務大臣 他大臣歴任・自由民主党元総裁)
- 岸田文雄内閣総理大臣を訪問 ..... 6
- 林芳正外務大臣 主催歓迎会 ..... 8
- 国土強靱化推進本部長を訪問 ..... 10
- 共同宣言文 ..... 12
- サミット会場は熱気に包まれた ..... 14
- 日本アフリカ連合友好議員連盟と意見交換 ..... 16
- ファーストレディへの励ましの言葉 ..... 17
- JICA 講演 栄養と米について ..... 18
- 特別授業は驚きの連続 ..... 19
- 給食を食べたら 驚いた!! ..... 22
- 学校で子供たちに安全な水を!! ..... 24
- 防災植樹 見沼田んぼに桜を植えた ..... 25
- ブルンジ共和国 大統領夫人 ..... 26  
アンジェリーヌ・ンダユバハ・ンダイシミア氏
- コンゴ民主共和国 ..... 28  
ギド・バンザ・ムウェピュ氏 首相夫人  
マダム・ナタリー・ドマイ氏 内閣官房事務局長
- ガンビア共和国 大統領夫人 ..... 30  
ファトゥマタ・バー・パロー氏
- マラウイ共和国 大統領夫人 ..... 32  
モニカ・チャクウェラ氏
- タンザニア連合共和国 首相夫人 ..... 34  
メアリー・ベンジャミン・ムバワラ・マジハリワ氏
- ウガンダ共和国 ..... 36  
ロビナー・ナッバンジャ首相
- ジンバブエ共和国 大統領夫人 ..... 38  
アクシラ・ナンガグア博士
- サミットを振り返って 正・副 議長対談 ..... 40
- 編集後記 ..... 42

# 第一回アジア太平洋アフリカ女性経済サミット実行委員

## 最高顧問 二階 俊博 ご挨拶



二階 俊博 衆議院議員

経済産業大臣 他大臣  
歴任・自由民主党元  
幹事長

食糧危機から子供を守ることは、全世界の共通の課題です。

国の母の立場で皆様方にご参加をいただき、意見交換をするのは大変貴重だと私は考えています。“女は弱し されど母は強し”という諺があります。強き母の力を今回の第一回アジア太平洋アフリカ女性経済サミットを通して是非とも結集していただきたいと思います。それが子供たちの未来を強いものにする確信するからです。

世界はアフリカの現状を十分理解した上で協力していく必要があります。日本は人に対する投資で協力していきたいと考えております。

いついかなる時でも日本に対するご意見等があれば、おっしゃって下さい。女性活躍社会の為には女性の力が必要であることは言うまでもありません。

皆様方のご活躍を心より願っております。

## 相談役 谷垣 禎一 ご挨拶



谷垣 禎一 元衆議院議員

財務大臣 他大臣歴任  
・自由民主党元総裁

アフリカ各国のファーストレディの皆様のご参席を戴いたこのサミットの会議が“子供たちの持続可能な食糧と水”についてであることをとても、感慨深く、また大変誇りに思います。

2007年ウガンダに伺った際には、貴重なビクトリア湖の水位が大幅に減少しており、とても心が痛んだことを鮮明に覚えています。それから15年の歳月を経て、本サミットが実現されました。

今回ファーストレディの皆様の総意で“災害時にも、出来る範囲で助け合うこと”や“農業・気候変動等への技術協力”も共同宣言として世界に向けて発信がなされました。国の母としてここ東京で成し得た“子供たちの未来の為の協力の輪”が、子供たちの将来の躍進に大いに繋がることを祈念致しております。



キリマンジャロ

# 日本国総理大臣を訪問



岸田 文雄 内閣総理大臣



## 岸田文雄 内閣総理大臣と にこやかに歓談

最終日の12月1日、岸田文雄内閣総理大臣は、にこやかにアフリカのファーストレディたちを迎えた。歓談に先立って、岸田文雄内閣総理大臣は次の様に話された。

### ファーストレディへの歓迎の言葉

皆様の訪日を歓迎いたします。

第一回アジア太平洋アフリカ女性経済サミットにご出席の皆様とお伺いしております。心から歓迎申し上げます。

食糧分野の、食糧の自給確保、防災に焦点をあてて、議論が行われたときいております。

各国相互協力 さらにウクライナ侵略における世界的な食糧危機が懸念されている。

その中における女性の方々あるいは子供の皆様への支援が急務となっております。

今年開催された TICAD 8 においても、女性への質の高い教育へのアクセスですとか、女性の参画推進、農業分野の人材育成、こうした事が議論になりました。

是非 日本としても引き続き女性の皆さんや子供の皆さんを守るべく 取り組みを進めていきたいと思っています



コンゴ民主

ブルンジ

ウガンダ

首相官邸にて

ガンビア

マラウイ

タンザニア



議長 橋本聖子  
参議院議員

ジンバブエ夫人代理  
マツアンガイセ  
臨時代理大使

コンゴ民主・  
ムウェピユ夫人  
ブルンジ・  
イシミエ  
ンダイシミエ夫人

岸田文雄  
内閣総理大臣

ガンビア・  
パロー夫人  
ウガンダ・  
ナッパンジャ  
首相

マラウイ・  
チャクウェラ夫人  
タンザニア・  
マジリワ夫人

副議長 中森ふくよ  
元衆議院議員



タンザニア・マジリワ夫人



マラウイ・チャクウェラ夫人



ウガンダ・ナッパンジャ首相



コンゴ民主・ムウェピユ夫人



ガンビア・  
パロー夫人

ブルンジ・  
ンダイシミエ夫人



# 林 芳正外務大臣 主催歓迎会



## 強靱なアフリカを!!

歓迎会は、外務省の飯倉公館で行われた。林芳正外務大臣は日程上都合がつかず、山田賢司外務副大臣が挨拶を代読され国の母としての同サミットの成功を祈るとしめくくった。



代読 山田 賢司 外務副大臣



林 芳正 外務大臣  
文部科学大臣 農林水産大臣 等歴任

## 歓迎会のご挨拶

この度は歓迎レセプションによろこそお越しくございました。

皆様は日本滞在中に、第一回アジア太平洋アフリカ女性経済サミットに参加予定ですが、本サミットの実現に向け、本日ご臨席の中森ふくよ会長が大変ご尽力をなさいました。今回は食糧の自給確保や環境、防災分野において子供に焦点を当てた意見交換が行われると承知しております。

昨今、気候変動影響による大規模災害が世界各地で発生する中、災害時における食糧の確保と、そのための国際的な相互協力に対する動きがますます重要になってきます。特に大規模災害の負の影響を真っ先に受ける女性や子供達の対策が急務であります。本サミットがこの重要な課題に対する重要な先例をつくることになることを期待しております。

日本は長らくアフリカとともに歩んでまいり、日本政府が八月にチュニジアで開催した第8回アフリカ開発会議 TICAD 8 では日本が重視する人への投資の観点から食糧安全保障においても20万人の農業分野における人材育成を支援策として発表しました。

日本はアフリカとともに成長するパートナーとして、アフリカ自身が目指す強靱なアフリカの実現に引き続き協力してまいります。

本サミットの期間を通じ皆様ならではの視点で活発な議論が行われるとともに、その議論の成果をぜひ自国に持ち帰っていただき、自国内における環境の向上に繋げていただければと思います。

第一回アジア太平洋アフリカ女性経済サミットの成功を祈りつつ私の挨拶とさせていただきます。

Thank you very much. Merci beaucoup.



橋本聖子 参議院議員  
タンザニア・マジャリワ夫人  
マラウイ・チャクウェラ夫人  
コンゴ民主ドマイ内閣官房事務局長  
岸田裕子 内閣総理大臣夫人  
山田賢司 外務副大臣  
ウガンダ・ナツバンジャ 首相  
ガンビア・パロー夫人  
ブルンジ・イシミア・ムウェビュ夫人  
コンゴ民主・ムウェビュ夫人  
中森ふくよ 元衆議院議員



最初から最後まで、全てのテーブルを回られ親しく歓談された岸田裕子内閣総理大臣夫人。

このサミットの件で、当協会 中森会長が相談にうかがった際にも、にこやかに、そして大きく頷いて「とっても良いことだと思いますし、大事なことだと思います、子供の事は女性が一番解りますから」とお話をいただいた。そして「応援します」とお話をされたという。



## 岸田裕子 内閣総理大臣夫人ご挨拶

皆様こんばんは。ご紹介いただきました、岸田裕子でございます。海外からご参加の皆様、日本によろこそ、そしてご列席の皆様、外務省主催のレセプションによろこそお越しくございました。食糧の自給確保や環境、防災は国の未来を担う大切な存在である子供たちにとって大変重要な課題です。

今回、第一回アジア太平洋アフリカ女性経済サミットにおいて皆様の豊富なご経験をもとに活発な議論が行われ、日本とアフリカ関係のさらなる発展につながることを祈念して、私のご挨拶とさせていただきます。



岸田裕子 内閣総理大臣夫人      中森ふくよ 元衆議院議員      マラウイ・チャクウェラ夫人



飯倉公館にて      岸田裕子 内閣総理大臣夫人      中森ふくよ 元衆議院議員      ガンビア・ハロー夫人 (ピンクの服)



# 国土強靱化推進本部長を訪ねて

## 二階俊博 国土強靱化推進本部長と懇談

**「子供にとって母に勝るものはありません。世界中の男性は、母には決して勝てません」**

と冒頭、二階俊博本部長は、ファーストレディの方々を歓迎した。



二階俊博 衆議院議員  
経済産業大臣 他 大臣歴任  
自由民主党 元幹事長

## サバクトビバッタの被害時 温かい支援に感謝

まずウガンダのナッパンジャ首相は、二階俊博本部長に「サバクトビバッタの被害の際には早急に行動して支援していただけたことに感謝いたします。これからは、防災や災害時における技術支援をお願いしたい」と感謝とともに“災害を防ぐ技術の重要性”を考えたいと感謝されていた。

次にコンゴ民主のムウェピユ ファーストレディは、「性暴力による被害者の社会復帰のため、農業等 仕事へ従事できる取組を指導して欲しい」と具体的な希望を挙げられた。



中森ふくよ 元衆議院議員      二階俊博 衆議院議員      外務省 国際協力局局长

日本の外務省から、アフリカの子供たちの食糧対応について報告を受ける二階俊博自民党幹事長。(当時)

2020年～コロナ禍と、サバクトビバッタの襲来があったアフリカ

日本は、被害が多かった国へ“TICAD 7”の予算から支援を決定



ブルンジ・ンダイシエ夫人      コンゴ民主・ムウェピユ夫人      ウガンダ・ナッパンジャ首相      二階俊博 衆議院議員      平沢勝栄 衆議院議員



タンザニア・マジャリワ夫人      マラウイ・チャクウェラ夫人      ガンビア・バロー夫人      ジンバブエ夫人代理 マツァンガイセ駐日臨時代理大使

## 災害予知の手段がない

そして同国を含めて、ブルンジ、タンザニア、マラウイ、ガンビアは、「現在 災害を予測する手立てがない。つまり災害が何処に来るのかさえ想定出来ない状況である。

是非、日本の防災技術を教えていただきたい」と二階俊博本部長に理解を求めた。



二階俊博 衆議院議員



ガンビア・バロー夫人



二階俊博 衆議院議員

平沢勝栄 衆議院議員

## みんなで助け合いをするために日本へ来た

マラウイのチャクウェラ ファーストレディとガンビアのバロー ファーストレディは、今回は子供たちの未来のため、みんなで助け合いをするために日本へ来たこと、参加したすべての国が、防災知識の指導を求めていることを挙げ、今回の訪日したサミット参加国をよろしくお願ひしたいと、二階俊博本部長に協力を求めた。

## 日本の得意分野です

二階俊博本部長は「防災は、日本は得意分野です。可能な協力は是非ともやっていきたい」と力強く応えた。



タンザニア・マジハリワ夫人



### 参考

二階俊博  
衆議院議員

中森ふくよ  
元衆議院議員

日本の米プロジェクトを立ち上げた  
二階俊博 自由民主党 元幹事長

## 戦争は起こらない

**「女性が政治の中心になっていけば戦争は起こらないと思う。頑張ってもらいたい」**

と最後に、二階俊博 国土強靱化推進本部長は、この激励の言葉をかけられた。

## 共同宣言文

私たちはここに集い、それぞれの国を代表して、「子供たちが生き抜く為に必要とする持続的な食糧生産や、よりピュアな水の確保」に揺るぎない意思をもって、今日ここに世界に向けて宣言致します。

近年子供たちを取り巻く環境は多くの困難に瀕しています。異常気象を原因とする旱魃・大洪水・歴史的嵐やバッタの大量発生、そして感染症や危険な環境下での出産等々、子供たちへの影響は計り知れません。

「生まれてくる子供たちが健康に育ってほしい」という私たちの願いは、国境や宗教を越えて、世界の母たちの共通の願いであります。

そしてアフリカの子供たちが、戦争で涙を流すことの無きよう努力を続けます。

この切なる願いを叶える為にも、私たちは、先進諸国が持っている食糧確保のための技術の取得を必要としています。

従って先進諸国の技術提供、及び技術指導をいただけることを、私たちは強く望んでいます。

それはアフリカに生きる子供たちの勇気と知恵を大いに喚起するでしょう。

世界中が気候変動に大きな影響を受けている今、この子供たちの光り輝く生命を守るために、私たちは共に協力し合い、励ましあいながら、未来に向けて前進し続ける所存です。

私たちは、アフリカ各国の母としてここに誓います。



## "To cope with food crises for the future" The 1st Asia Pacific Africa Women's Economic Exchange

【主催】アジア太平洋アフリカ女性経済サミット実行委員会、(一社)アジア



副議長 中森ふくよ  
元衆議院議員

ジンバブエ  
アクシラ・  
ナンガガア夫人

ウガンダ  
ロビナー・  
ナッパンジャ首相

タンザニア  
メアリー・ベンジャミン・  
ムバワラ・マジャリワ夫人

マラウイ  
モニカ・  
チャクウェラ夫人

ガンビア  
ファトウマタ・バー・  
パロー夫人



コンゴ民主  
ギド・バンザ・  
ムウェピユ夫人

コンゴ民主  
ナタリー・ドマイ  
内閣官房事務局長

ブルンジ  
アンジェリーヌ・ンダユバハ・  
ンダイシミエ夫人

議長 橋本聖子  
参議院議員



# サミット会場は熱気に包まれた

## 子供たちが安心して暮らせる世界であって欲しい

中森会長の想い、それは15年前、財務大臣を退任された直後、谷垣禎一先生にご一緒させていただいたウガンダで生まれた。隣国の戦火もあり、子供たちが十分に食事を取る事も出来ない現状を目の前にして「全ての子供たちに生きる権利や学ぶ権利がある、何とかしなければ」と思い続けてきた。

## 紛争、暴力、気候変動

いつの時代でもトラブルの被害は子供たちに一番に襲いかかる。少なくとも子供たちが食糧や水不足による状況から脱しなければ、地球人類の明るい未来はない。そんな、女性として子供たちへの強い想いから“第一回アジア太平洋アフリカ女性経済サミット”は始まった。

## 大きな支えとなった“大切なことです”のひと言

当時自由民主党幹事長の二階俊博先生がかけてくれた言葉「子供たちのため、国の母としてファーストレディがこのサミットに集まることは“大切なことです”」この言葉がこの上もなく大きく響き、前進する推進力となった。こうして二階俊博先生と谷垣禎一先生をはじめ大先輩の先生方の助けやアドバイスをいただけたことで、国内外の有識者や大切な友人たちの輪が大



議長 橋本聖子 参議院議員



副議長 中森ふくよ 元衆議院議員

きく広がっていった。

乗り越えなければならない大小の壁は当然の事のように次々と起こったが、2022年11月28日、衆議院議員第一議員会館内“国際会議場”にアフリカ7か国のファーストレディが“国の母”として話し合うためについに集結した。

## 国際会議場は

各国の伝統的なファッションからスーツまで、



ガンビア

副議長

ブルンジ

ジンバブエ

坪井達史 専門家を囲んで



色とりどりのお似合いの服装でファーストレディはにこやかに挨拶を交わした。世界情勢がどんなに厳しくても、女性は女性、会議場いっばいに華やかさと、ファーストレディの気品が漂っていた。

開催予定時間通りに開会宣言がなされた。谷垣禎一相談役の挨拶（代読）の後、橋本聖子議長、中森ふくよ副議長の挨拶があり、各国のスピーチは始まった。

橋本聖子議長は現職の参議院議員で要職の立場にもあり、日本の国会は開催の真っ只中でもあった。議長不在の時は中森副議長が、副議長



谷垣禎一 元衆議院議員



代読 松下新平 参議院議員

と”を望む強い意志に満たされていた。

そして開催期間中、さらに強まったコミュニケーションと互いの信頼を心に刻みながら、第一回アジア太平洋アフリカ女性経済サミットは、笑顔いっぱいの中で署名と共同宣言がおこなわれた。

スタートしたばかりの国の母たちのサミットは、小さな第一歩だったのかもしれない。

しかし各国ファーストレディが訴えた子供たちの未来のための4日間は、子供たちにとって貴重な道標となるだろう。この“国の母たちのサミット”が子供たちの命を照らす礎のひとつとなる事を願ってやまない。



コンゴ民主・ドマイ内閣官房事務局長内閣官房事務

ジンバブエ・ナンガグア夫人

不在の時は議長が交互に変わるようになっていたが、熱い議論の中、橋本聖子議長は真剣な眼差しで耳を傾け続け、議長席にぎりぎりまで着座していた。

2日目の共同宣言では、議場で言葉の使い方に多少の検討がなされたが、国の母としての総意で決定がなされた。

議場はファーストレディの“協力し合あうこ



コンゴ民主・ムウェビユ夫人





# 日本・アフリカ連合友好議員連盟と意見交換



会長 逢沢 一郎 衆議院議員

## 逢沢一郎 衆議院議員（外務副大臣・他予算委員長 等を歴任） 同議員連盟会長 講演 要旨

私はアフリカの約20ヶ国以上を既に訪問していますが、共に協力し合う事の大切さを痛感しています。また圧倒的なアフリカの大自然と人類との共存共栄を願うものの一人でもあります。さて日本では“物事のロスやマイナスを無くし、効率化すること”を“KAIZEN(改善)”と言いますが、日本のそのような考え方が、エチオピア等でも地元の言葉となっていると聞いて本当に嬉しく思っています。今後も様々な観点から、アフリカ諸国に対してお手伝いをさせていただきたいとお約束をして、講演を終わります。

## 女性メンバーとの意見交換

“女性の支援”“子供たちの命”そして教育の充実に向けての支援の必要性に共鳴することばかり。『日本とアフリカ、女性として共に力を尽くそう!』と語った。



牧島かれん 衆議院議員



高階恵美子 衆議院議員



鈴木貴子 衆議院議員



あべ俊子 衆議院議員

## 会談形式で行なわれた

### 会議場から次の感謝の言葉が上がった

- 低価格の製薬拠点を作ろうとしている  
日本の指導で WHO 承認のフェーズ3にある
- タービンのプロジェクト技術支援に感謝
- 病院の建設・道路建設に感謝
- 日本からのボランティアに感謝
- 気象衛星に感謝

### 日本に各国から協力の要請の声があった

- アフラトキシンで子供が死亡研究施設支援を
- 医療分野の知識の指導（薬製造施設建設等）
- 性暴力から守り、心的ケアの指導
- 農業技術指導（早魃（かんぼつ）、灌漑（かんがい）施設援助）  
（専門家の育成・ネリカミの栽培）
- 栄養面で学校給食プログラム支援



牧原秀樹 衆議院議員  
同議員連盟 事務局長

# ファーストレディへの励ましの言葉

**遠藤利明 衆議院議員**（東京オリパラ担当大臣 等を歴任）

## アジアの子供たちに学校をつくる議員の会・会長 挨拶 要旨

国会の仲間であります中森ふくよさんの団体の主催で、子供たちの食糧確保のための会議が行われることを大変嬉しく思います。

このようにアフリカのファーストレディが一堂に会し、意見交換が行われるという初めての試みに敬意を表します。また私も 橋本聖子議長もオリンピック担当大臣を務めさせていただきましたがアフリカ諸国の多くの選手がここ東京で活躍されたことに御礼申しあげます。気候変動による<sup>かんぱつ</sup>旱魃や輸出制限など、難しい状況もありますが、このサミットの開催が“子供たちにとって、安心できる食糧確保”のきっかけとなれば大変有難いと考えます。私たちもなお一層の努力をして、皆様と共に問題解決に向けて 邁進して参りたいと決意を新たに致しています。



遠藤利明 衆議院議員

**平沢勝栄 衆議院議員**（復興大臣 等を歴任）

## 挨拶 要旨

アフリカの皆様方と親善を深めていくことは、日本にとってとても大事なことと考えております。ぜひ私たち議員連盟を色々な形で利用していただけるとありがたいです。私たちがお手伝いできることは言っていたきたいですし、全力で皆様を応援させていただくことをお約束してご挨拶と致します。



平沢勝栄 衆議院議員

## 国会内議員食堂にて

**齋藤健 法務大臣**（農林水産大臣 等を歴任）



齋藤健法務大臣には元農林水産大臣の豊富な知識をもとに、水と農業の問題について、貴重なお話をされ、ご挨拶の中で「アフリカと日本は更なる連携を深めて参りたい」との強いお言葉をいただいた。国会開催中、駆け付けてくださった。

**藤丸敏 内閣府副大臣**

「今後、アフリカと日本の関係は更に重要になるだろう。お互い力を出し合って協力関係を強化しよう」と歓迎の言葉を述べられた。

藤丸敏衆議院議員も、議会中のランチ時間に、駆け付けてくださった。



# JICA 講演 栄養と米について

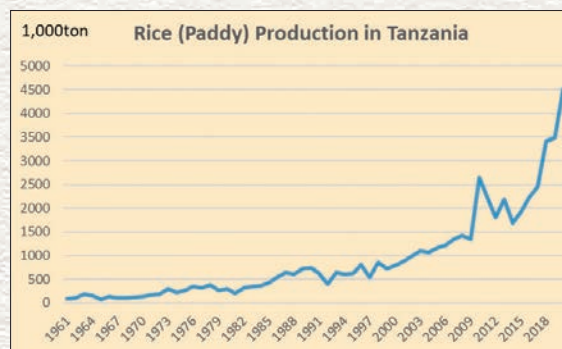
memo

75年前、日本の子供たちは栄養不足で苦しんだ、そして学校給食がまず小学校から設けられた。今アフリカの子供たちが栄養不足問題を抱えている。サミットの初日には、日本の外務省が継続して力を注いできた“アフリカにおけるJICAのコメの増産と、栄養に関する取組”についての講演をいただいた。

## 井本佐智子 JICA 理事 講演 要旨

2021年12月7日にJICA栄養宣言「栄養をすべての人々へ～人間の安全保障のための10箇条の約束～」を発表しました。

また、アフリカでのコメ生産倍増を目指す取組「アフリカの稲作振興のための共同体」が、今ウガンダ、ザンビアなどアフリカ32か国で進められており、農業計画アドバイザーを派遣したり、灌漑プログラムかんがいの持続的な利用の運営、稲作開発プログラムの企画などを行っています。JICAはタンザニアで、1970年代から、ジェンダーや農業機械を含め稲作に関する研修を各地で実施した結果、女性も参画の上でコメの生産量を大幅に増加させる土台を築けたと考えています。



米は換金作物として定着し、生産量はアフリカで3位となった。タンザニアは現在、近隣諸国へ米を輸出している



JICAは、アフリカにおける食料・栄養に関する協力を拡大し、以下のことを行う

- ・アフリカの人々が十分な栄養のある食料を手に入れることができるようにする
- ・未来を担う子どもたちを守る
- ・女性のエンパワーメントをさらに促進する

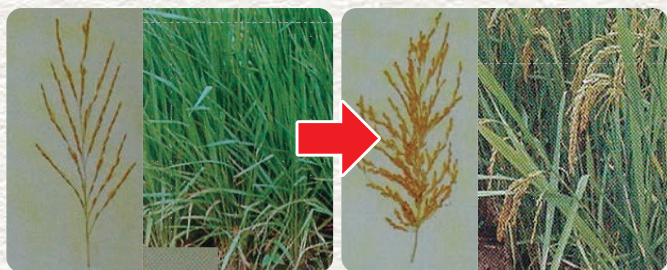
# アフリカの大地に種をまく ～米で笑顔を作りたい～



## JICA 坪井達史氏 講演 要旨

2008年のTICAD 4で、福田康夫内閣総理大臣がアフリカの米の生産量を10年で2倍にする目標を掲げ2018年に達成できました。

この倍増に貢献したのがアジア米とアフリカ米の交配からできた陸稲のネリカ (New Rice for Africa) です。ネリカは1から18までの18品種がありネリカ4が一番人気です。ネリカは穂が大きく1本の穂に付く粒数が従来の陸稲品種に比べて2倍近くあり高収量が得られます。また、播種から115日程度の短い期間で収穫できます。陸稲のネリカ栽培に必要な降雨量は5日間で20mm以上です。ネリカは水田が無くても畑地で栽培できるし、苗作りや田植えの必要が無く今までの畑作と同様に播種して覆土するだけと簡単です。またイネなので雨季に湛水した所でも良く育ちます。



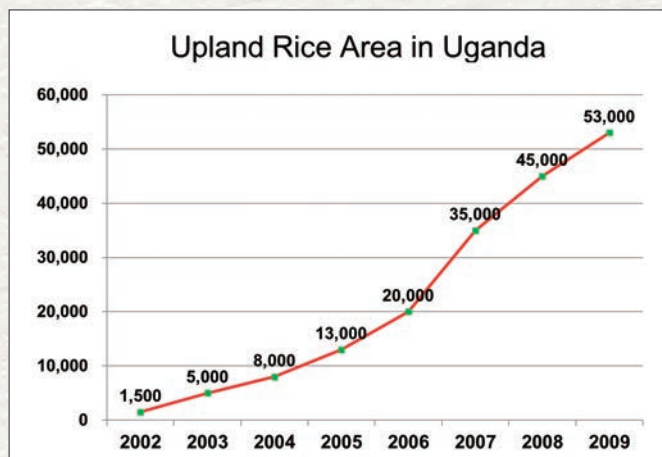
## 土壌の水分を保持することがポイント

ウガンダでの各種試験から、斜面の畑ではテラス（段々畑）を造ることにより、降った雨を下に流さないことで土壌水分を保持することができます。テラスの有る無しで収量に倍以上の差が出ます。



## ウガンダの作付面積 1,500ha から 53,000ha へ

グラフの通り2004年の陸稲作付け面積1,500haから2009年には53,000haと増加しました。



また、2004年にエチオピアを訪問した際には雨季には畑作物もイネも栽培されていなかった場所には、下記の写真のとおり、2013年にはネリカ畑に変容していました。



## アフリカには2億4千万 ha 湿地帯がある

その内の4,000万 haが稲作に適しています。そこで農家の研修を実施し稲作をすることで米の生産量が増えます。それには日本が稲作支援を継続することが必要です。

**memo** 15年前、ウガンダの試験圃場で栽培されていた“ネリカ米”を指さしながら谷垣禎一衆議院議員に「米の増産を、日本を代表して頑張りたい」と話す坪井達史氏の姿が今でも忘れられないと言う中森ふくよ副議長。2022年に中森氏に「アフリカでは新しい品種、肥料、灌漑施設の支援をしても農家に栽培技術研修を行わないと稲作の普及や定着はしないだろう」と語ったという。

# 特別授業は驚きの連続



マラウイ チャクウェラ夫人による特別授業

## さいたま市立美園北小学校で

小学校の4年～6年生の1クラスにつき1カ国ファーストレディが教壇に立たれ、30分の特別授業を快く引き受けてくださったファーストレディ。

授業は初めから驚きの連続だった。ファーストレディは、各本国から、日本の子供たちへ分かりやすい教材を用意していた。本国の野生動物や地形の紹介、同じ年頃の子供たちの紹介ビデオ、また本国の音楽の紹介もあった。



子供たちの掲示物（子供たちはアフリカの国について沢山調べて待っていた）



ジンバブエ青年同行者による特別授業

クラス毎に、様々な方法で独自の特別授業が展開され、子供たちは目を丸くして驚きながらも、授業をとても楽しんでいた。

そしてファーストレディを迎える子供たちも、ファーストレディの母国について学び、掲示物や歓迎の言葉などが所狭しと教室に張り出してあった。これにはファーストレディも驚いた。市長、教育長をはじめ、校長先生を筆頭に学校側が子供たちとファーストレ



「質問のある人？」と問いかける  
ブルンジ・ンダイシミア夫人

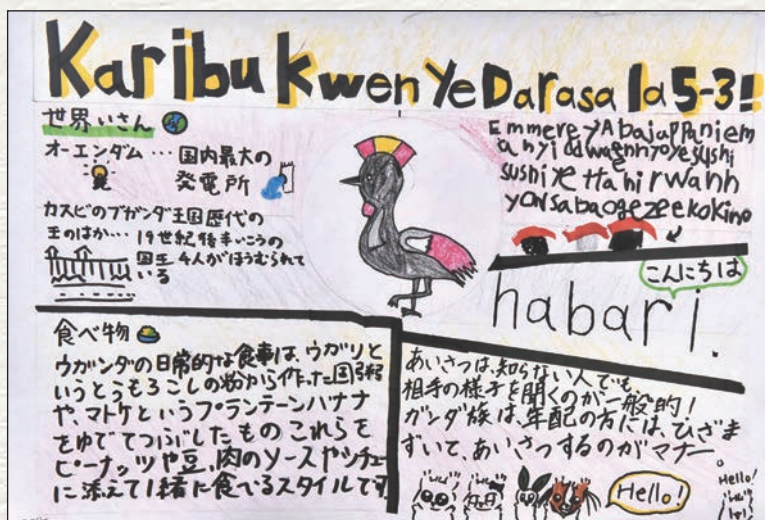
佐藤利春校長先生は「生徒たちが、ファーストレディから心のこもった授業を直接受けられて、ありがたい」と何度も語っていた。

そして「このまたとない経験は必ず子供たちの心に残り、日本とアフリカに留まらず、子供たちの豊かな未来に繋がると思います」と力を込めて語った。

特別授業を見て国の母であるファーストレディたちが、いかに子どもに愛情を注いでいるかが分かり感動した。

ディの母国について事前に準備を重ねてくれていたからだ。

日本の子供たちと直接触れ合ったことにファーストレディは、笑顔でこう語った。「子供たちは世界中どこでも皆同じで、目がとってもキラキラしている。これをきっかけに子供たち同士の交流がより深まり、更に良い関係が築けると嬉しい」と。



子供たちの掲示物 (子供たちはアフリカの国について沢山調べて待っていた)



子供たちと記念撮影するコンゴ民主共和国・ムウェピユ夫人

# 給食を食べたら・・・驚いた!!

子供たちの食糧安定供給を目指し来日されたファーストレディは7名。

7か国の“国の母”たちがさいたま市立美園北小学校を訪れ、子供たちと一緒に日本の学校給食を体験した。

## 日本は戦後 深刻な食糧難が広がった

子供たちの栄養状態をなんとか改善しようとして始めたのが学校給食だ。日本の給食は安心安全が第一で、発達段階に応じた必要な栄養をバランスよくとることが義務付けられ、毎日の献立が作られている。

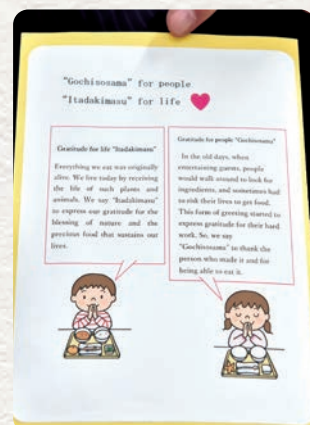
## 給食の時間も助け合いの育み

ブルンジのンダイシミア ファーストレディは、白いエプロンを掛けて子供たちと一緒に配膳に参加していた。

本国では大人が子供に配膳をするのが通常で、子供同士で配膳することは無いので、日本式配膳に驚きを隠さなかった。



一食・約200円



献立について質問するタンザニア・マジャリワ夫人



給食配膳を体験する ウガンダ・ナッパンジャ首相

命に感謝するために手を合わせること、給食の献立が必要な栄養素を網羅していること、献立のメニューが日替わりであることなど、驚きの連続であった。

ウガンダのナッパンジャ首相は「良い取り組みを見せてもらった。ここで学んだことの多くを、本国で学校給食の施策作りに活かしたい」とおっしゃった。



みんなで一緒にいただきます コンゴ民主・ムウェピユ夫人

## 皆でやる教室清掃

そして給食後、子供たちが教室を清掃する姿にも、ファーストレディたちは驚いた。

「子供たちが自分の教室を自分たちで清掃するなんて…」

「しかもまだ小さい一年生も掃除するなんて」「小さい頃から、学校で自分たちの使った教室を掃除する習慣があるから、日本の国は街もきれいなのね」と。



子供たちとハイタッチ ガンビア・パロー夫人

また、「学校生活の中で“協力と助け合いの精神が自然に出来上がっている”ことに驚いた」とウガンダのナッパンジャ首相は語った。



掃除をする子供たち



拭き掃除をする子供たち



# 学校で子供たちに安全な水を!!

“安全な水へのアクセス”は、アフリカ各国が最優先に解決したい問題だ。

安全な水があれば、感染症にもかからないと、各国大使館は口を揃えて言う。

「水汲みで学校に通えない」

「不衛生な水を飲むことで、児童の死亡率が高い」

「農村には飲料水が少ない」と。

## 病原菌を排除する

## 日本製フィルターは0.2ミクロンで



空気中から水を作る装置

アフリカには小さい村々が点々としている。砂漠地帯や水源があっても、飲料水に適さない水質等々、問題はたくさんあるだろう。

しかし、協力を惜しまない日本の技術者たちがいる。空気中から飲料水を作る装置、フィル

左：黒い装置が海水を真水に



右：フィルターにて濾過装置

ターを使ってきれいな水を届ける装置、海水を真水にする方法の装置を3台用意して、デモンストレーションを行った。市内の池の水を汲み、日本のフィルターを用いて濾過した。フィルターはコレラ菌などの微生物を排除する優れものである。安全に飲めるようになったお水をファーストレディの前で試飲した。

「どれくらいの水量が確保できるのか？」

「コストは？」

「電力は？」

質問が続いた。

フィルターをとおした水を飲む  
中森ふくよ氏



コンゴ民主・中森ふくよ ウガンダ・ マラウイ・ ブルンジ・  
ムウェビユ夫人 元衆議院議員 ナッパンジャ首相 チャクウェラ夫人 ンダイシミエ夫人

タンザニア・  
マジャリワ夫人

# 防災植樹 見沼田んぼに桜を植えた

## 大野元裕 埼玉県知事 寄稿文

「アジア太平洋アフリカ女性リーダー招へい事業の植樹活動プログラム」が、アフリカ各国



見沼自然公園内

の首脳及び首脳夫人の皆様方を埼玉県にお迎えして実施されましたことを改めてお祝い申し上げます。

当該事業の目標である、世界の子供たちのために食料確保を目指す農業振興の重要性アピールや、命を守る災害対応を目指す相互協力体制の確立は、SDGsの考え方にも通じる重要なトピックスと考えます。

このたび、植樹を行った見沼田んぼは、首都近郊に残された貴重な大規模緑地空間です。農業だけでなく都市住民が自然に親しむ場でもあり治水機能もあわせ持っています。多様な機能を持つ見沼田んぼにおいて植樹プログラムが実施されたことは、埼玉県知事としても大変意義深いものと受け止めております。

結びに、各国のますますの発展と、日本・アフリカ諸国との関係がより深まることを祈念申し上げます。御挨拶といたします。



大野元裕 埼玉県知事

## ～土を活かして食糧増産へ～

### “豊かな土作り” ハエがない

畑にとって、残飯や糞尿、雑草は貴重な肥料として日本では古来から利用されてきた。

以前はたい肥化するのに約1年を要したが、現在は、より短期間で出来るようになった。土に投入した前述の残飯等を攪拌することやバクテリアの投入等で、僅か20日から25日間で優良な畑の土を作ることが可能だ。

縦100m×横3m＝面積300㎡でハエはいても数匹だ。栄養価の高い収穫物に必要な良い畑は、地域にある天然肥料を十分に生かすことが必要だ。日本ではまだコロナの問題があり、東京から出て現場を見学してもらうことが許されなかったため、ビデオでの放映となった。その一部をこの冊子で触れておくこととした。

### 25日で優良な畑の“土のもと”が完成します






ブルンジ共和国 大統領夫人

## アンジェリーヌ・ンダユバハ・ンダイシミエ 氏



ブルンジ ンダイシミエ夫人

### 栄養ある給食が目標

「ブルンジ共和国では様々な食糧生産の取り組みをしてきました。幸いにも災害は少ないのですが、近年では大量の雨が一度に降り、道路や水路、学校の校舎なども倒壊して、ブルンジのインフラに大被害をもたらしています。“2020年に栄養失調ゼロキャンペーン”を正式にスタートさせました。ファーストレディ機関では寡婦や孤児への医療提供などに力を入れています。5歳以下の子供たちの死亡率が高いのが特に問題です。

栄養失調ゼロキャンペーン以来、栄養失調の子供の割合は6%から4%に減りました。しかし学校での飲料水が不足していて、栄養ある食事が必要としています」

### 学校給食を全国に拡大したい

「ファーストレディになってから学校給食の導入を率先して取り組んできました。是非ともこの学校給食制度を全国にさらに広げていきたいと考えています。



### 学校給食を広めたい

子供たちの栄養改善のため、日本の坪井専門家によるネリカ米の普及を広め、ブルンジ全土に学校給食をつくりたいと語っていた。



給食配膳を体験

日本の給食のノウハウも、是非とも参考にしていきたいと思います」

## 日本の技術指導を渴望

「日本とブルンジは 1963 年以來、とても良い関係が続いています。私は日本が兄弟国だと思っています。両国のこのような関係は今後もずっと続いて欲しいです。それは両国の将来にとっても大変素晴らしいことだと考えています。

ブルンジは現在農業、牧畜等をさらに進んだものへと積極的に取り組みを続けています。それは食糧の安全確保という意味においても、我が国にとって大変重要です。



成田空港にて



見沼自然公園にて

日本は先進国として、とても進んだ多くの技術を持っています。その進んだ技術を、ブルンジに継続して指導していただきたいと思います。持続可能な農業の技術は大変重要であり、また加工食品などの分野においても技術指導は渴望されています。

我が国は開発途上国であり、開発するためのパートナーを必要としています。大雨被害のお話をしましたが、防災関係の人材育成や防災設備なども、多くの面で足りておらず、望む部分であります」



岸田裕子内閣総理大臣夫人と外務省飯倉公館にて

## 協力を深めよう

「このサミットは私たちが友好と協力をさらに深める良い機会です。このサミットでの私たちのコミットメントは、世界の多くの子供たちの命を支えるために役立つことでしょう。

次回のサミットは是非ともブルンジで開催していただきたいと思います」



坪井達史 専門家と

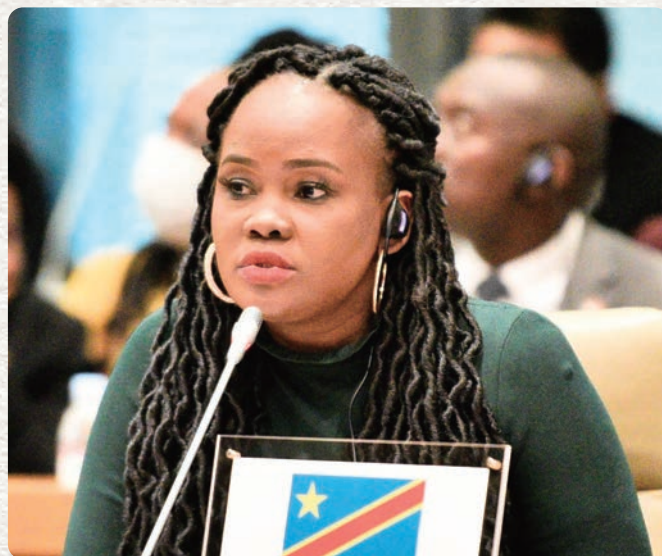
## コンゴ民主共和国



ギド・バンザ・ムウェピユ氏 首相夫人  
マダム・ナタリー・ドマイ氏 内閣官房事務局長



コンゴ民主国 ムウェピユ首相夫人




コンゴ民主 ドマイ内閣官房事務局長



### 平和への願い

紛争で傷つく“子供たちの心と身体”  
「子供たちが農業等の技術を学ぶ機会を与えて欲しい、その技術が大きな国力に繋がる」と。

### 協力と結束で飢餓の撲滅へ

 「世界、とりわけアフリカ大陸を中心に  
かんぱつ 旱魃などの災害が多くなり、飢餓が多くなって



岸田裕子内閣総理大臣夫人と 飯倉公館にて

います。広大な農地が砂漠化し、コロナも相まって飢餓は促進されています。そして戦争・紛争が拍車をかける悪循環に陥っています。例えばコンゴ民主共和国においては、東部で数十年に渡って M23 という武装集団が紛争を引き起こし、治安や食糧事情を悪化させています。それが東部の子供たちの食糧不足、栄養不足に直結しているのです。天災による飢餓だけではなく、人為的な飢餓があるという事実には耐え難いものがあります。

この様な状況のもと、各国の努力と結束が増々求められる時代に突入していると言えましょう」

### 日本の技術、電力インフラの指導を

「問題解決のためには資金が必要であることは間違いありません。率直に言って、アフリカに対して短期的長期的なビジョンで食糧危機を救ってほしいと思います。

日本のインフラの素晴らしさは特に有名です。是非ともインフラをはじめとする様々な技術、災害対策技術も指導していただければ、アフリカ各国をはじめ、コンゴ民主共和国の人々は



首相官邸にて 岸田文雄 内閣総理大臣と握手

いに救われます。大雨被害で電力設備や電線が破壊され、20名以上も感電者が出たこともありました」

### 日本の農業技術で発展につなげたい

「コンゴ民主共和国は耕作地のポテンシャルが高く、広大な耕作可能な土地があります。農業関連の技術指導により確実にさらなる発展につながっていくでしょう。」



水の装置見学

日本には医療支援でも助けてもらっており、大変感謝しております。

2021年にも日本から、浄水器やテントの支援物資を受け取りました。

私たちは政府、民間、市民社会が一体となって問題解決に取り組み、

これからも継続して努力していくつもりです」

### 性暴力被害者へのケアの呼びかけ

「紛争地域では女性への性暴力、被害がとても多いのです。性暴力の被害者たちは精神的に非常に大きな傷を受けます。社会復帰のための設備

とプログラムが必要なのですが、とても間に合わないくらい被害は拡大していきました。

このようなことが今、現実になっているという事実を知っていただききたいですし、また救う一助が得られたら大変嬉しく思います。女性や子供たちがそんな状況から脱することができる社会を、私たちは目指しています」



サミット会場にて



ガンビア共和国 大統領夫人

## ファトウマタ・バー・バロー 氏




ガンビア バロー夫人



### 子供たちあつての未来

近年ガンビアには観光客が増え、観光業が盛んになったが主力は農業だという。在名古屋ガンビア共和国名誉総領事館設置に尽力したビントゥー女史が、ガンビアを知ってもらうため、商店会へ働きかけたり、テレビを通し活発に活動している。ファーストレディは来日中、ビントゥー女史を伴いながら、繰り返しアフリカの“連携の大切さ”を訴えておられた。

### ウクライナ戦争で食糧アクセス難しい

「今回のサミットはアフリカの子供たちのためには非常に意義があると考え、参加させていただきました。現在ロシアとウクライナの戦争で、国連からの支援が停滞しています。

そして両国の輸出事情や国境閉鎖から、小麦などの穀物が入ってこなくなり、急激な価格上昇を引き起こしています。多くの脆弱な国は、食糧アクセスが出来なくなっています。子供たちは現在、非常に苦しんでいます。食糧の不足



サミット会場外にて



橋本聖子 参議院議員

中森ふくよ 元衆議院議員



岸田文雄 内閣総理大臣と歓談

や品質の低下、インフレ、コロナでの多数の死者やサプライチェーンの断絶など、ここ数年は状況が悪化の一途を辿っています。ガンビアの飢餓レベルは現在 116 ケ国のうち 72 位で、ビタミン不足が顕著です」

### 食糧の持続可能な技術指導を

「現在、食糧や水について、私たちは援助を必要としています。しかし明日の自立、自給のためには、是非とも技術を身につけたいのです。技術を指導していただきたいと痛切に願っております。技術者が育っていけば、我が国は劇的に変化していけると考えています。

例えば洪水など、発生してからの対処しかできません。災害を予見するための科学技術があれば、アフリカ諸国はどんなに助かるでしょうか。

我が国には灌漑設備も食糧を備蓄するための設備もありません。また食糧を増産するには土地改良が必要です。食品加工技術も重要です。また沿岸部では塩分のため、農業ができないエリアもあります。（※ここで、橋本議長から日本の技術での対策を紹介した）技術指導をしていただくことは、金銭的支援以上に我々が渴望するものです」

### 必要なのは団結

「今回のサミットで、私たち女性リーダーが中心となり話し合いの場を持てたという事実は、今後非常に大きな役割を果たすのではないかと考えます。オープンチャンネルのコミュニケーションはとても重要です。私たちは国の母として、今ここにいます。協力し合い、団結することが大切です。私はみなさんと一緒に、頑張っていきたいと思います。次回は是非ともアフリカで開催していただきたいです」



自由民主党 党本部にて



子供たちと談笑 美園北小学校にて





マラウイ共和国 大統領夫人


## モニカ・チャクウェラ 氏



### みんな我が子

“隣の家の子は自分の子” という諺がマラウイにはある。今は難しくても将来 お互いの国の子供に手を差し伸べられるようにしたいと語っていた。

### 食糧増産の次に

 「マラウイにとって農業は非常に重要です。食糧危機に対する取り組みとして 農業の生産性を高め、産業化を進める必要がありました。潜在的には土壌が豊かで水にも恵まれています。



マラウイ チャクウェラ夫人



首相官邸にて

日本の技術協力などもあり、政府は 370 万人以上の農家を支援し、食糧生産を拡大できました。しかし全てがうまくいったわけではありません。旱魃<sup>かんぼつ</sup>もあり、サイクロンで穀物ができない年もありました。

気候変動にはなかなか対応できませんが、それに負けない方策が必要だと思います。食品加工や備蓄の技術は、今後の私たちには必須だと考えます」

### 子供たちの不幸はつらい

「今回のサミットのテーマでもありますが、世の中が困難になると、最も影響を受けるのはやはり子供たちです。低学年の学費を無料にしましたが、食糧が無いためにドロップアウトする子供たちが多いのは、悲しみ以外の何物でもありません。

五歳以下の子供の 4% が急性栄養不良に陥り、死亡する子供のうち 23% が栄養失調、そして予

防可能にもかかわらず年間 4 万人の子供が死亡しているのが現実です」

## 教育が国家をつくる

「子供の発育阻害は、毎年 GDP の 3% の損失になっているというデータもあります。

水を汲みに行くにも安全ではないため、女子が被害を受けることも少なくありません。また女子は識字率が低いのです。

私は女子を教育していくことで、国家が強くなると信じています。子供の安全と女子教育が一番の課題だと私自身、強く考えて活動を続けています。



小学校で給食体験

マラウイでは農業生産の 85% を女性が担っているのですから。

また社会的に最も弱い立場にある人々を含むすべての人々に教育の機会を提供できれば、国家は大きく変貌していくと信じています」

## 連携と相互協力の未来を

「今回のサミット参加は私にとってとても意義がある事でした。私は国の母として参加させていただきました。そして私たちには互いに協力する気持ちと連携が必要との思いを新たにしました。そのためにも、今後もより深いコミュニケーション体制を継続していければと考えます。私も出来ることは何でもします。



中森ふくよ  
元衆議院議員

橋本聖子  
参議院議員

アフリカの国が一致して農業、食糧加工技術の指導を日本に依頼しましょう。私たちの未来にとって、明るいものにきつとなるはずですよ」



タンザニア・マジャリワ夫人 サミット会場にて



タンザニア連合共和国 首相夫人

# メアリー・ベンジャミン・ムバワラ・マジャリワ 氏




タンザニア マジャリワ夫人

**memo** **子供の将来を守り続ける!**  
 「子供たちの未来に光を灯す世界を作るのは、私たちの責任です」と話された。



ブルンジ・ンダイシミア夫人 サミット会場にて

## 子どもが健康であること

 「どの国にとっても、繁栄は子供が健康であることが一つの条件です。そのため私たち国の母たるリーダーは、協力しながら食糧確保、水の確保、教育のために働いていかなければなりません。国連が示した SDGs は非常に重要な指針だと考えます。

持続可能な農業の推進を我が国は進めています。子供たち一人一人が飢餓と栄養失調から守られるように、生産性を上げていく必要があるからです。気候変動による旱魃<sup>かんぼつ</sup>、コロナ、食糧価格の高騰など不安定要因が増えていますが、それらに負けない体制作りは私たちの努力と知恵の結集によって達成されるはずです。

子供たちの未来に対応できる世界を作ることは、私たちの責任です」

## タンザニア政府の取り組み

「タンザニアでは五歳以下の子供たちの栄養状

態が悪化しています。何百万人の子供たちが十分な食糧を確保できていません。そのためタンザニア政府では次のような取り組みを行っています。

- ① インフラと農業に投資を行い、将来的な安心を目指す。
- ② 食糧確保に向けて、冷却や輸送の改善～流通の改善を行う。
- ③ バランスの良い食事とは何かを中心に、ナショナルキャンペーンを実施する。
- ④ 中小規模の農場に対して、早魃<sup>かんぼつ</sup>に強い種を支給するなどの支援を行う。
- ⑤ 民間セクターと協力しながら、最大生産力を追求する。

このような取り組みを続けていますが、タンザニアはインド洋に面していて地震もあり早魃<sup>かんぼつ</sup>もあります。近年は大きな災害が2回ありました。私たちはこれらに負けず、努力を続けなければなりません」

## 皆で作る平和が重要

「例えばローカルマーケットをサポートする、食品ロスを無くすなど、まだまだ世界中の課題は山積していると思います。

紛争もまだ世界にはあります。世界平和に向けた取り組みが、子供たちにとって非常に大切



共同宣言文に調印

だと思えます。日本、アジア、アフリカ諸国のためにも、私たちタンザニア政府は、国際的な協力関係をこれからもコミットしていきたいと考えます」



飯倉公館にて 岸田裕子 内閣総理大臣夫人



ホテル ニューオータニにて



ウガンダ共和国

## ロビナー・ナツバンジャ首相



### ゴリラの家族台帳

有名なウガンダの「マウンテンゴリラ」はブウイディ原生国立公園の“家族台帳”に登録されているという、ユニークな話しを聞いた。寛大で優しい国民性を子供たちは受け継ぐでしょう。



「今回のサミットに参加させていただき、非常に嬉しく思います。ファーストレディのスケジュールがつかず、首相である私が参加させていただきました。国の母たちを代表する立場は、私自身皆様方と同様だと考えています。食糧不足という事態に一番に直面するのは、女性と子供です。子供たちをサポートするために、私たちは今日ここに集結したと認識しています。そしてお互いをサポートする気持ちこそ最重要であると思います」

### 孤児を救う改善活動

「1980年代半ばにウガンダは、戦争の混乱から立ち上がろうとしました。孤児が非常に多く



衆議院第一会館の茶室にて



ウガンダ ナツバンジャ 首相

ファーストレディは心を痛めキャンペーンを実施し、あらゆる女性層を集めて孤児を救う活動をしました。貧困、食糧不足、福祉の向上、ネグレクト対策など、愛と安らぎのために献身的に働きました。自治体やコミュニティレベルで子供の保護委員会を発足させ、警察も巻き込み、あらゆる改善を図ったという歴史があります」

### 無から有へ食糧改革

「ウガンダにはカラモジャ地方という所があります。人里離れた地方部で、旱魃<sup>かんぼつ</sup>、過酷な条件下での農業、物資不足、技術不足など、無い無いづくしのエリアでした。食糧不足は慢性化していました。政府はそこに思い切った施策を講じ、持続可能な開発活動の資金を提供しました。農機具を提供し、トラクターで耕した土で早く成長する作物を奨励するなど指導を実施しました。その結果、効果はてきめんで、脆弱な家庭は一年で65%から34%へ、さらに次の一年で20%へと激減しました。

そして3年後には10%までに減ったのです。この施策は2011年から2016年まで継続しました。食糧難の家庭が減ると、子供たちの退学が減ります。子供たちが健康であり、母たちが誇りと自信を持って仕事に取り組むことが私たちの理想だと痛切に思います」

### 手に手を取って協力しよう

「現在ウガンダには、コンゴ民主共和国、スーダンなどから多くの難民が押し寄せています。その数は150万人にもものぼります。ロシア・ウク



首相官邸にて 岸田文雄 内閣総理大臣



見沼自然公園にて植樹

ライナ戦争の影響で、これからも世界各地に難民が増えていくでしょう。

食糧が必要ですし、難民の子供たちを学校に通わせる事も必要です。

日本には、ノウハウも含めて難民対策のサポートを望みますが、そのようなニーズは世界的にも拡大していく可能性があります。

食糧の安全保障と教育、持続可能な社会作り、貧困ゼロ・飢餓ゼロ、男女平等の世界を目指して、手に手を取り合って協力してまいります」



サミット会場外にて



ジンバブエ共和国 大統領夫人

## アクシラ・ナンガグア博士



ジンバブエ ナンガグア 博士

memo

### ファーストレディは博士

きれいな水があれば多くの子供は病から解放される、並行して医療機器の充実を進めたいと活動を続けている。

### 農業改革をすすめた

「ジンバブエは農業国で、国民のほとんどは何らかの形で農業に関わっています。食糧不足、貧困からの脱却に向けて、ジンバブエ政府は様々な改革を行ってまいりました。農業の機械化、すなわち近代化や産業化を推進してきました。直近の気候変動、コロナ、紛争などの影響で阻まれた部分もありますが、国家・民間が一緒になって食糧の安全保障と持続可能な農業のために頑張ってきました。

国として自給率を高めていくことは絶対に必要です。そのため政府は国家開発戦略として、2030年ビジョンを示しました。“中の上の経済



橋本聖子 参議院議員

を目指す”とそこには明記されました。

地方を開発して農業を拡大し、小規模農家、やぎ牧畜や養鶏業を育て、農業従事者の収入を増やしていこうとするものです」

### 女性活躍を重視

「子供の笑顔は本当に素晴らしくて貴重です。そのためにお母さんたちにはもっともっと元気

になってほしい。だから私たちは女性の地位向上を目指します。女性は農業分野での一番の力となっています。そのため今後は国を挙げて、女性のあらゆるトレーニングを重視し、さらに充実させていきたいと考えます」

## エンジェルホープ財団

「2018年に私は、エンジェルホープ財団を立ち上げました。脆弱な女性や子供は財団を通して援助を受けられるよう活動してきました。女性パワー無くして、今後の国の発展はないと思います」

## 気象衛星ジムサート

「日本政府とのパートナーシップはとても重要で心強いです。その全てが食糧の安全保障に直接的に役に立ち、重要であるからです。」



衆議院第一会館 茶室にて



二階俊博 国土強靱化推進本部長と対談

初の衛星ジムサート1は、様々な気象変動の予測に役立ち、次のシーズンの農業戦略に大きく寄与しています。

また太陽光発電、ウォータータンク、<sup>かんがい</sup>灌漑設備など、現在の我が国には無くてはならないもので、非常に感謝しています。植物栽培も国の各地で、大幅に拡大することができました」

## サミットの継続は重要

「このサミットについては継続の重要性を強く感じます。今回のサミットをベースとして、後々プログラム交換や検証ができると素晴らしいと思います。」

そのためにも協力体制とコミュニケーションを是非とも大切にしていきたいです」



坪井達史 専門家と



学校給食を体験する 臨時大使と青年同行者



# サミットを振り返って 正副議長対談



## 議長 橋本聖子

参議院議員、少子化対策・男女共同参画担当大臣、東京オリパラ担当大臣等  
歴任 オリンピック アルペールビル大会 スピードスケート 1500m 銅メダル（日本人女子初）

## 「国の母が結ぶ 子供たちの未来」

中森 副議長

2日間にわたった“第一回アジア太平洋アフリカ女性経済サミット”の議長を務めてくださり、本当にありがとうございました。討論の途中、厳しい局面もありましたが、常にファーストレディが納得のいく進行をしてくださり、各国のファーストレディは「素晴らしい議長だった」と絶賛しておられました。

橋本 議長

1日目の各国スピーチが淡々と進んだので「これは時間通り進むのかな」と思っていたら、本当に白熱の議論でしたね。特に2日目の議論は。ファーストレディというのは一種の政治家だなと痛感させられました。各国大統領の助言もあったのかもかもしれませんね。

中森

ご夫人方の前で講演するため、待機していらした逢沢一郎（日本アフリカ連合友好議員連盟 会長）先生が「ファーストレディってこんなに雄弁な人ばかりなの？」と大変驚いていらっしゃいました。

橋本

その逢沢一郎先生から、事前に私に電話があり「アフリカ大統領夫人とアフリカ議員連盟との意見交換会というのがあるんだけど、是非とも出席してよ」と言われました。「私、そのサミットの議長です」と答えると先生は笑っておられました。

## 「共同宣言文の調印へ」

中森

共同宣言文はあらかじめ各国に素案としてお届けしていましたが、それでも一つの単語の解釈で参加国の主張がかみ合わない部分がありました。

橋本

私は議長として、始めは台本通りに議事進行をしていましたが、別角度からの発言が多くなってから、「議員（橋本聖子参議院議員）としての考え方を話さなければ収まりがつかないな」と考えました。

中森

はい、議長席から「このサミットの意義」についても同時にお話しして下さいました。白熱した議論があったのは、それだけ各国のファーストレディたちがこのサミットに対し大いに期待し、真剣な討論を望んでいたからだ、と考えています。結果として、より内容が深まったと思っています。



宣言文調整中

橋本

始めは各国とも“国の母”として現状レポートや希望などを話していましたが、二日目はそれぞれの立場から、意見も膨大になりました。各国の役職を持たれた方や専門的な方々がいつの間にかファーストレディの隣席に座って真剣な表情で議場に向かって話し始めたのにはビックリしましたが、もう止められませんでしたね（笑）

中森

私は、全員サインの目的は達成したいと強い意志を持っておりましたので、状況によっ

ては更に時間が延びることも覚悟しておりました。全員のサインでなければ、このサミットは意味を成さないと考えていました。1時間20分をオーバーした時点で、橋本先生は議事を「いったん止めましょう」と私におしゃって、議場の休憩時間を取りました。こういったお考えだったのですか。

橋本

それは私も同じ気持ちでした。一つのワードであっても、解釈の仕方によっては受け取り方が異なるため、時間にこだわらず「これはとことん話し合った方がいいな」と思いました。好きなだけ話してもらって、気持ち良く帰ってもらうのがベストだと瞬間的に判断しました。正直に言って 公式会議だったならば、あのようにはできなかったかもしれません。目的さえはっきりしていれば、最後はこの文章でいかせていただきたいと言うつもりでした。

中森

各国の母の意見としても明確な発言をしていただき、とても意義がある話し合いだったと思います。その結果として、皆な満足されて全員サインという目的も果たせました。

## 「支援にも工夫が必要と痛感」

橋本

アスリート時代にテレビの企画で、世界の選手らとケニアをバイクで縦断したことがあります。その際も、そして外務副大臣の時にも痛感したのですが、より良い支援とは「モノより人」が重要だと思いました。ODA も人を育てるのが基本です。

中森

私もそう思います。各国のファーストレディ



宣言文調整中

### 副議長 中森ふくよ

元衆議院議員、一般社団法人アジア太平洋アフリカ 女性経済交流会会長、国土交通省 小笠原諸島振興開発審議会委員、生活安全課を創設



そして唯一参加した政治家であるウガンダ首相も、揃ってそのような方向性の支援を希望していましたね。「日本の技術提供を」

橋本

そうです。そうしない限り経済格差は解消されませんし、未来が明るくならないと考えます。技術支援、教育支援などは、日本が先頭に立ってやっていくべき分野だと思います。例えば冷凍技術は日本が最先端ですし医療技術や加工技術にしてもそうです。

中森

その通りだと思います。参加国はまさに日本の技術を渴望していると思います。岸田総理も、共同宣言に呼応してご夫人方に「弱い立場の女性や子供たちのために、一緒にやっていきましょう」とお話しくださいました。日本は一つの支援を決定する迄いくつものプロセスがあり、安心して安全な仕事をしますが、決定までに時間がかかるともいわれています。しかしサバクトビバッタの襲来時とコロナ禍での対応については迅速にしてくださいました。

橋本

国の母としての連携を取り合うことができた素晴らしいサミットとなりました。今回のサミットで預かったいろいろなご意見が実現できるよう、これからも力を尽くしましょう。

中森

子供たちの未来のための取り組みに、このサミットを継続することは重要だと、強く思っています。橋本聖子先生、本当にありがとうございました。

## 編集後記

この度の“給食を食べたら驚いた！”の発刊にあたって、第一回アジア太平洋アフリカ女性経済サミットにお力添えをいただきました皆様には、本当に感謝の気持ちでいっぱいでございます。

2020年1月、駐日アフリカ大使会議にてプレゼンをさせていただき、その後多くの大使閣下との意見交換の場を幾度となくいただきました。

また、大使夫人主催のお茶会や華道展を通して、日本の伝統、文化を大切にされていることを知り、大変感銘いたしました。

今回のサミットでは、まず子供たちの健康を守るという観点で、学校での清潔な水へのアクセス、米を中心とした栄養改善という目標の基に動き始めることが出来ました。

子供たちの学びの場でもある学校で安全な水を供給するという取り組みにも、より一層力を入れていきたいと考えております。

米の取り組みについては、本サミットでご講演いただいた JICA の坪井達史専門家による“ネリカ米育成のための調査”を、ジンバブエに於いて2023年3月になされております。

次なるサミットの開催に向けて、“STEP to STEP”となるよう、サミットにおいて提起された諸問題に、全力で取り組んで参りたいと決意しております。

本サミットにお力添えを賜りました国内・外の関係者の皆様には、この場をお借りして深く感謝申し上げます。また、当サミット実行委員会 最高顧問 二階俊博先生、相談役 谷垣禎一先生、遠藤利明先生には、限りないご指導、お力添えを賜り心からの御礼を申し上げます。

お世話になった皆様には、どうぞこれからも変わらぬご厚情賜りますようお願い申し上げます。

令和5年1月

中森福代

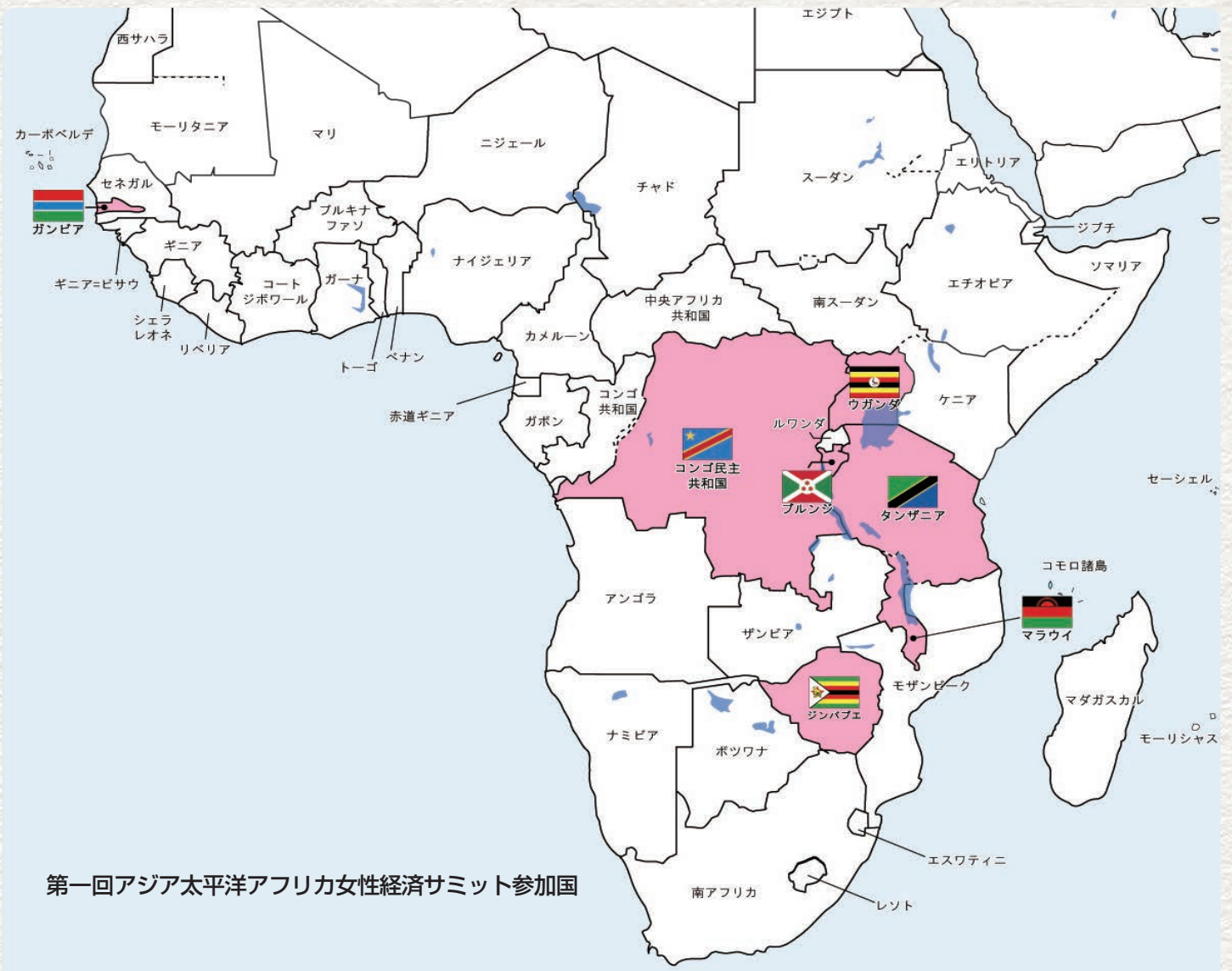


カランコエ



於 JICA 市ヶ谷ビル

駐日アフリカ大使会議 2020年1月 中森ふくよと日本国外務省 参加



第一回アジア太平洋アフリカ女性経済サミット参加国

一般社団法人 アジア太平洋アフリカ女性経済交流協会  
〒 336-0022 埼玉県さいたま市南区白幡 5-19-19  
Tel 048-866-5116  
Fax 048-866-8555

---

アフリカ諸国のファーストレディが  
給食を食べたら・・・

発行日 2023年5月1日  
発行 一般社団法人 アジア太平洋アフリカ女性経済交流協会  
編集 株式会社ティ・ブイコミュニケーション  
製作 株式会社ティ・ブイコミュニケーション  
撮影 仲谷亮平  
印刷 井上総合印刷株式会社

一般社団法人 アジア太平洋アフリカ女性経済交流協会  
Email [info.nkmr294@gmail.com](mailto:info.nkmr294@gmail.com)

給食を食べたら「国の母」が驚いた

*Thank you*

